

概要

2011年【古典を読む-歴史と文学-】 「いま明かされる古代X XVIII」

第6回 記紀伝承から読む 古代の遠距離交通 - ヤマトタケル東征伝承 を手がかりに -

開講日時： 7 / 30 (土) 午後 2 : 3 0 ~ 4 : 3 0

講義会場：金鷄会館(国登録有形文化財)宝形塔屋講義室

講師： 山梨大学 教育人間科学部

社会科教育講座 准教授

大隅 清陽(おおすみ きよはる)先生

概要：

『古事記』『日本書紀』に登場する伝説の英雄ヤマトタケルは、その東征の帰路、甲斐の酒折宮に立ち寄り、地元の老人と不思議な歌問答を交わしたとされている。この伝承は、従来、4～5世紀のヤマト政権が東国を軍事的に征服していった過程を反映するとされることが多かったが、講師は、むしろ6～7世紀の平時における、列島規模の遠距離交通の実態を反映するものと考えている。文献史料の限られた古代の地域史研究においては、考古学との学際的な協力だけでなく、神話や伝承から読み取れる情報も、積極的に利用する必要がある。今回の講演では、考古学などが明らかしてきた古代の地域像に、記紀をはじめとする古代の伝承を重ね合わせることによって、記紀の史料批判と解釈という、古くて新しい課題に取り組んでみたい。